

令和3年度 自己評価書

学校名	和歌山市立広瀬小学校
校長氏名	永原 三士
作成日	令和4年3月1日

1 教育目標

たくましく豊かに行きぬく子を育てる

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えを発表しようとしている」…児童90% わかる授業、子供主体の授業を実践した…児童・教師90% 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと感じる…児童90% いじめの把握と解消率…100% 月1回の「広瀬の子」 学期1回以上の校内委員会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に運動を行うよう計画し、実践した…教師90% 給食後の歯磨き…児童100% 保護者や地域と連携した訓練の実施…年2回 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がよく伝わった…保護者90% 中学校区で接続、連携した取組を具体的に実践できた…教師90%
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎・基本の確かな定着 ◎個に応じた指導の工夫改善 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子ども同士が高まりあう集団活動の充実 ◎人権教育の充実 ○児童に対する共感的理解 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ◎中学校区における連携の推進 ○コミュニティスクールとしての開かれた学校づくり
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のねらいやまとめを明確にし、対話的な学びの質を向上させる。 ○書くことで自分の考えを明確にし、意見交換や話し合いによる児童中心の授業スタイルに取り組む。 ○学校図書の実践と読書習慣の確立に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動を中心としてよりよい生活をするための実践力を育てる。 ○いじめアンケートの複数回実施により、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ○情報モラル等について、保護者とともに学ぶ機会をもつ。 ○児童一人一人の状況を教職員全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○たてわり活動等による外遊びを充実させる。 ○「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨する。 ○フッ化物洗口や歯磨き習慣を推進する。 ○感染症予防の正しい知識（手洗い・マスク・換気等）とその実践力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種便り、HP等を通して積極的に学校の情報を発信する。 ○学校行事や地域の行事への相互参加、運営協力等による連携を進める。 ○中学校区における小中、小中の連携を推進・充実する。 ○ゲストティーチャーや読み聞かせボランティア等の取組を進める。
取組の成果と課題（評価結果）【C】	<ul style="list-style-type: none"> ○研究主題のもと授業のねらいやまとめを明確にし、協同的な学びに全体で取り組めた。 ○基礎的・基本的な内容の定着に引き続き取り組む必要がある。 ○自分の考えを発表しようとしている…83% ○毎日の勉強がわかる…92% ○読書環境の整備に引き続き取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童全体でたてわり活動を進めることができた。 ○学校が楽しい…94% ○いじめアンケートを各学期に実施し、結果の対応に迅速に取り組んだ。 ○毎月の「広瀬の子」、校内委員会、ケース会議等を開催し、情報の共有ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○フッ化物洗口や食後の歯磨き活動に取り組めた。 ○感染症予防の正しい知識とその実践について教員が学び、児童と一緒に実践できた。 ○コロナ禍でたてわり活動が思うようにできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の様子がよく伝わった。…保護者94% ○中学校の校長会は実施できなかった。 ○中学校体育大会や部活見学への参加ができなかった。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的対話的な学びに向けた授業研究の充実 ・基礎的・基本的な内容の確実な定着 ・特別支援教育の視点を生かした個別の支援の充実 ・読書環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題意識の喚起と主体的な活動の充実 ・一人一人の児童の細やかな状況把握と情報共有・専門機関との連携 ・特別活動を軸とし、教科教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携によるより良い生活習慣作り ・外遊びの推奨 ・交通安全教室や薬物乱用防止教室、喫煙防止教室の実施 ・より実践的な避難訓練の実施と防災意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域との情報共有による開かれた緊密な関係づくり ・学校行事や地域行事への相互参加、運営協力等による連携の継続 ・中学校との情報共有や情報発信

3 その他の課題

<p>コロナ禍により学校での生活様式も変化してきたが、様々な取組を進める中で教職員と児童は懸命に対応し、地域や保護者からもあたたかい理解・協力を得て、一年を過ごすことができた。本校は全学年が単学級であり教職員数も限られているので、児童の安全確保や行事の運営面等で人員不足を感じている状況である。さらなる運用の工夫により児童のより充実した学校生活の保障をする必要がある。</p>
--